

武雄市議会だより

栄八通信

第 32 号

147 10 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

第2弾 新武雄市1年点検 具約(新提案)が 愚約にならない為に!

【企業誘致の状況】

樋渡市長に、一番市民が期待したのは、観光宣伝ではなく、総務省や高槻市関係による関西地区からの企業や学校誘致だった。

市長の政策チラシにも、企業の誘致↓税収増↓福祉・子育て支援↓活力のある町とのサイクルで、出発点は、企業誘致であった。

当時、もう樋渡氏に、多くの企業からの問い合わせがあつていて、4社ぐらいは、具体化する様な口ぶりだった。

しかし、その後、企業誘致については、市民に分かる説明や状況報告はない。また、外政や企業誘致を目的に、副市長を県から2年間まねいたが、その期限も半年あまりになったが、大型企業誘致の実績はあがっていない。

具体的に状況を市民に説明すると、武雄市内の、企業立地適地調査を、コンサルタントに発注し、5ヶ所の土地を選定したと言いが、投機や地権者に過度の期待を与えたとの心配から公表しないとの方針。ただ、企業訪問の時には、案内しているとの事だが、逆に地権者に了解を得ずに宣伝しているのをおかしい気もする。

一方、武雄市は国が進める複数の自治体が協力して企業誘致を行う地域を支援する企業立地促進法の指定地域になった。

しかし、工場緑地の整備費や、固定資産税の市の減免分の補填程度で、そう抜本的な国営工業団地のなものではない。

予定の場所は、伊万里に隣接する、若木・武内地区周辺を計画するが、まだ、伊万里市との具体的な計画は話合っていないらしい。

また、一番困難なのは、その大規模な工業団地をだれが主体で造成するか?との問題である。現在の若木工業団地が、長く売れ残っても、市の政治問題にならないか。たのは県営工業団地で県開発公社所有で市に負担がなかったからです。

県も今後、更なる県営工業団地新設は考えにくく、武雄市・伊万里市の協力と言うが、サムコの工業用水で多額の支出をする伊万里市が、工業団地造成に多額の財政負担をすることも考えにくい。

結局、武雄市が、市長の具約として、勝負を打つか、市長の人脈を頼りに、造成を自社とする企業を見つけて来るしかないと思う。まずは、市長が公約した企業誘致をどう進めて行こうと考えているのかを明確にすべきと思う。

そんな中、逆に、若木工業団地内で、外装パネルを製造していたカイロン九州が、撤退し、トヨタ合成九州も、同合成本体に吸収された。(業務は継続)

一方、サムコの製造ラインのメンテナンス業である、エピクル社は、今年12月に着工し、来年6月に業務を開始すると言う。

【動く市役所】

市役所に来れない高齢社宅に、市職員が出向いて、手続き等を行うものだが、青色回転灯の車で、市職員が防犯パトロールを兼ねてする予定だったが、パトロール中に別の事があると、トラブルの原因になるとの指摘で、現在中止しているらしい。パトロールの方は、市各課まわしで、最低週1回は実施している。しかし、市民の中には、私たちは仕事を早退してしているが、市の方は勤務中で、給料も出ているのではの声も。

【廃プラスチックの回収】

北方町は、旧町時代から行っていて、これを全市に広げる方針だが、まだ実施の時期は決らず。

【オイ・ワイ条例】

市長が、男女共同参画の会合の席で、妻を、オイやワイと呼ぶことを禁止する条例を作ると言うもの。賛否あつて、市長は市民に意見を聞いて、実施に移したいとの発言。しかし、市民への問いかけは、今だにあつていない。

【公用車の市民貸出し】

市の車輛を、ボランティア事業などに貸出す市長案。考えとしては評価している。しかし、現実の利用は、年に数件しかなく、もっと利用しやすい貸出し基準に変える必要がある。

【バーチャル武雄市計画】

パソコンのホームページ上に、仮想の武雄市を作り、そこで武雄市の観

派閥解消「オール武雄」を進めるところか 逆行では!

樋渡市長は、市長選挙当選直後のインタビューに答えて、「選挙中に、市民から武雄市の派閥を無くして欲しいとの声が多く寄せられたことから、自ら武雄の派閥を解消する。」との主旨の強い決意を表明されていた。

私も、30年も前の20代の時から武雄市の派閥は、物事の本質とは関係のない、人間関係で、賛成や反対の意見が出され、対立していることに、失望していた。

また、市民の多くも同感だと思ふが、権力のない1個人がどんなに解消したいと思っても、根本的に解決するのは、現実無理に近い。

そんな中、市のトップであり権力をもつ、樋渡新市長の力強い派閥解消宣言に対し、大きな期待を持った。

ところが、今議会、注目すべき一般質問でのやり取りがあつた。質問では、市長は、派閥解消を公約されたが、「新年会に、与党議員だけを、招いたそうだが、これは、派閥解消に反している。」との具体的な指摘だった。

それに対し、樋渡市長は、「選挙の時に、お世話になった方を、選挙の直近の正月によんだもので、

光めぐり等をしてもらうもの。私も以前新聞等で知って驚いて、本当に実現するのかと思つたが、現在の状況を聞くと、国の補助指定にもれ、現在は休止状態とのこと。

【楼門朝市】

これは、毎日曜日続けられている。大いに評価する市民がいる一方、本来、民間が主体ですべきものとの声もある。市は、補助金は

【三湯物語】

武雄・湯布院・杖立の三温泉で連携するとの話だが、以前の三都物語の武雄・唐津・佐世保はどうなったのか?

は不要との発言もされる。まったく、その通りと、私も賛同していた。しかし、参議院選挙前の新聞報道を見ておどろいた。

樋渡市長が、陣内氏(当時の予定者)の地区講演会に参加し、「武雄は、銭がたりないので、国から来て来んといかん。参院が自民党から、民主党に変われば、武雄は冷や飯だ。」と発言されたとの記事が出ていた。

私は、一般質問で、市長は、オール武雄で、市政を進めると言いながら、一方の政党に肩入れする発言をするのは、矛盾があると指摘し、市民を、おどす様な、冷や飯発言で、具体的に市にどんな不利益を受けるか、市長にたずねた。

市長は、冷や飯といっても、減される意味でなく、陣内氏には六角川のポンプで世話になっているとし、また「政策で一致する人は応援する。」との答弁だが、では、商工共済問題はどうか?単なる言い分けにしか聞えない。

やはり、参院選挙でも、市民の投票結果から見れば、与野党半分に程度に分かれている状況から見れば、オール武雄をかける市長が、わざわざ肩入れして、反発をもたれる様なことを、他の自治体首長以上にされるのは、納得いかない。

この様に、派閥解消・オール武雄の公約は、履行されていないので、今後ぜひとも、公約は、具約でなく、具実で証明して欲しい。

H18年度決算

工業用水	水道事業	市民病院	農排（維持分）	保養村給湯	国 保	たけお競輪	収支
672万円	15億8,320万円	15億9,685万円	7,252万円	2,854万円	55億7,322万円	151億2,300万円	支出
6,000万円	14億3,853万円	16億7,322万円	1億0,259万円	2,419万円	55億2,663万円	148億8,648万円	差額
▲ 5,700万円	1億4,466万円	▲ 7,636万円	▲ 3,007万円	434万円	4,658万円	2億3,727万円	処理
一般会計より赤字補填	繰越剰余金として持っておく	累積赤字合計▲6億0,955万円	約7割が負担されている状況	(支出内訳)1,200万円基金750万円広告へ	基金残高は65万円	剰余金として次年度繰越し	

三三解説

【武雄競輪】

近年、赤字続きで、約2億円づつ基金を取りくずしていたので、約5億円の基金が、3年間で無くなり、一般会計からの持出しの心配があったが、約2億円の黒字でひと安心。売上げが、約130億円の予定が、約150億円に増加した。その理由は次回解説したい。

【国保会計】

約4、658万円の、黒字となっているが、基金1億9、900万円を取りくずし、基金残は、約65万円しかない。H19年度は国保税を値上したが、どうなるか？

【保養村給湯】

434万円の利益だが、その前に基金に約1、200万円と、一般会計に750万円が、繰出しされている。これらに加え、約1千万円を広域宣伝費に使っていて、TAIZOU展に、600万円も使用。

市長の宣伝用のサイフ化の声も。

【市民病院】

H17年度より、入院・外来共に減少している。赤字は7、536万円と、全然黒字化できないことは無いと思うが、市は、病院健全化計画を発注し、提案も出ているのに、積極的な動きがない。

【水道事業】

私が、利益積立金は、公営企業法で、収支の赤字補填にしか使えないと言っているのか、H17年度分は、減債積立金に、今回のH18年度分は、積立てず、剰余金として、手元に保持する方法を取っている。

【工業用水事業】

杵藤クリーンセンターに配水したが、市の持出しは変わらず、約6千万円も、市税からむなしく持って行かれる。強力的対策をすべき。

市長の高槻市選挙応援出張の市費利用は問題あり！

今議会の指摘で私も始めて知ったのだが、市長のホームページに、4月の高槻市での、選挙応援に行つたと書いてあるが、その費用は、市長の個人的支出か、それとも、武雄市の公費から出されているかの主旨の質問だった。

総務部長は、選挙応援の他に、企業訪問もしているの、航空運賃は、市が払い、1泊分の宿泊費のみを、樋渡市長が支払ったとの説明。

しかし、一般市民から見れば、個人的つき合いで選挙応援に行き言いつに、つけたしたとしか写らない。

似たような例が、昨年11月に決算特別委員会を、市長が、異例に欠席した。その理由は、国土交通省などの中央省陳情とテレビ局訪

若手職員の努力を評価する

8月、山内町在住の市の営業部観光課職員が、30代の若さで亡くなられた。私は、その原因の二因として、市の業務の過重さがあつたのではと考えている。

市長の次々と打ち出す企画に対し末端の対応をあれこれ抱えこんだ状況でなかったのかと思う。

市民の方も、同じ見方の方も多く、その点を、総務部に伝えたと、誰が言っているのか？名前を上げて言ってもらえないと……」と次の言葉が出せないような、強い口調で、この件が市には一切関係はないとの姿勢。逆に、強い否定や、その後、この事の、話題が出ないのは、市長等の職務管理責任問題へ話が行く事を恐れて、無関係を装っている様に見える。

実際、がばいばちゃんでもTシャ

山内町どうなる福祉保健センター問題

老人福祉センターの意味で、旧武雄市には、競輪場近くに日輪荘。北方町は、焼米堤近くに長寿園がある。主なサービスは高齢者に、入浴と食事が低料金ででき、高齢者同士が、交流を深め生きがいをもっていたく施設。

両方とも、以前は、各自治体が運営していたが、現在は、共に、武雄市社会福祉協議会に運営を委託している。

そこで、山内町の件だが、合併以前の旧町時代の重要課題で、現山内支所横付に、用地も購入して、建物建設の設計も、終わっている。

ただ、新市での、建設についての市の明確な方針は出ていない。そこで、当面、合併した事もあり、日輪荘や長寿園の送迎バスを、山内町方面に拡大巡回して、同一サービスを提供すれば良いと思ひ、日輪荘所長に提案したが、現在の方

法では旧武雄市分でもいっばいで、余裕はないとの話。

一方、5万人規模の、伊万里市は、4ヶ所あり、風呂のあるのは1ヶ所、送迎はない。

また、鳥栖市は、小学校区の7ヶ所にあり、全部風呂はあるが、送迎はない。また、他地区の風呂にも行く事ができる。

では、今後、武雄市はどうするかだが、すぐ山内町に建設しないならば、最低武雄か北方の施設を利用できるように、市が動くべき。

それが、できないなら、山内町だけでなく、近くの若木・武内まで拡大したエリアで考えて作るのも周辺対策として良いの思ひもある。また、単独施設で金がかかるとならエレベーターもある山内支所を改造して作ってはとも考える。

武雄市もコミュニティバス走るかも？

市に、地域公共交通会議というのが作られ、議員・市民など30人で、バス路線の廃止や減便、また、ルートなど、効率的な運用に向けて、話し合いがされる。

現在、生活路線の維持の為に、バス会社に、国の補助や、市も2600万円あまり支出している。それを、見なおそうとの考えだが、単に切り捨てができないので住民全体で考えて判断させる形。

ただ、やり方によっては、伊万里市や小城市のように、市のコミュニティバスが、運行される型になれば、夢があるかもしれない。

市長が、乗客が、3・5人しかない状態を強調させるように、バスと言うより、普通車での送迎で成り立つのかもしれない。

公立朝日・若木保育所の民営化の動き

市は、公募により、朝日・若木市立保育所の民間移管する事業者を8月までに決定した。

川登保育所の時のように、多数の応募があった時とは違い、各1業者の応募で決定している。

旧武雄市の時は、武雄温泉ハイッも多くの応募があったが、新武雄市でのカンボの宿は、1業者の応募と、なぜか、新市になってからは、無競争が多いのが気になる。

ところで、具体的には、来年のH20年4月から、両保育所の民営化をスタートすると言う。一方、朝日は第1と第2保育所の統合も計画するがH20年度中に、現朝日小グラウンドに新園舎を建設し、H21年4月に統合し開園する予定。

旧園舎の活用については未定。

私の質問と市の答弁

景観条例と権限委譲

市は、景観条例を作り、武雄市の風景を守ろうとしている。特にその柱として、キャンバン等を、「屋外広告物条例」で規制する計画。

また、規制するに当り、県から権限委譲を受けて、市職員が業務に当たるといふ。

しかし、聞くところでは、規制の強さは、県並との話で、それならわざわざ、県から権限委譲を受け市が、人件費を使っているのは、意味がない。現在、佐賀市が行っている効果のある一段進んだ規制をすべきでは？

【市長回答】

ホップ・ステップ・ジャンプと随時規制して行く。

※コメント→住民から見れば、ホップでなく現状と同じで、規制しても、キャンバン撤去までは、数年の猶予を与えなければならぬので規制する所は早目に示すべき。

学童保育有料化とエアコンの整備

今、7月より、学童保育（放課後児童クラブ）が、月額2、000円の有料化になった。その時に旧北方・山内町は、学校とは別建



県が規制撤去の堂島交差点

て施設や、エアコンの設置をしていて、有料化を機会に、他小学校にも、エアコン整備をする約束はないが、どうなったのか？

【市の答弁】

年次計画を作り、整備したい。※コメント→後日、年次計画の中身を聞くと、正式ではないが、旧武雄市5ヶ所を来年度より2年間で整備する考えのようだ。

学童保育の基準日数で負担軽減を

学童保育の開設日数が少ないのに、通常の半額程度の補助金しかなく、日数を増して、保護者の負担を減らすべき。また、県はマスタープランで、土曜日開設を、現在の20%を来年度50%の自治体上げるとしている。これも部まで作って子育て支援を目ざす武雄市として、開設日数拡大に取り組まないのはおかしくないか？

【市の答弁】

全土曜日を開けると、保護者負担は、現在の2、000円から、2、150円にわずかが上がる。※コメント→私が、料金は下がるの提案に上がるの反論だがトリックがある。私は、現在の242日での補助金161万円を281日以上の補助金359万円を利用する提案で、全土曜日を開けるとは提案していない。

行革の柱、入札改革はどう進める

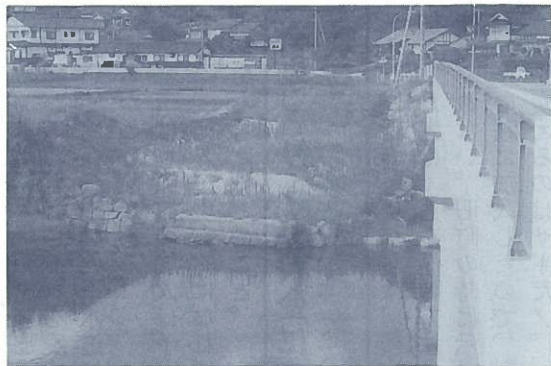
御船小と武雄小の児童数の不均衡対策

県立中適正検査に対応した授業実施も

区画整理のスケジュールと内容を示せ

ショッピングセンターでの窓口サービスはどうなっている

市
電子入札・郵便入札を県内市で足並みをそろえて検討中
保護者の希望を調査する。
現在県立中の選抜方法の見直しが行われている。
平成20年の夏までに示す。
現在も検討中



武雄北中方面のしんせい橋横 カバーしてある

柿田代史跡公園整備中止も？

柿田代遺跡調査費 155万円

地中レーダー調査費で、特にそれに対して、異議はないが、その説明の中で気になる点があった。大砲製造跡が武内町の松浦川の拡張工事中に見え、その時に樋渡市長は、史跡公園化を明言され新聞各紙にも大きく取り上げられて、地元もそう思っている。

しかし、このレーダー調査次第では、公園化しないとの説明。

しかし、公園化を表明したのは外部に出て来た水路が、大砲製造施設であるとの理由で、公園化中止とレーダー調査は関係ない。

こんな茶番のような話で、市長の発言を信じて期待した人は、行政不信になるのではとの心配も。

レモンガラスのその後

3月は、苗代、6月は、タイへの研究の為に職員派遣費が中心。今、9月補正は、レモンガラスが熱帯性の植物と言うことで、寒さに弱い為に越冬対策や、有機栽培の為に肥料などの資材購入。

私は、質疑でレモンガラスを収益産業としたいなら、行き当たりばったりで、バラバラ支出をせず、事業計画や収支計画を作って、進めるべきとの問いに、まだ、研究の段階で、そこまでできないとの答だった。

私としては、インターネットで見れば、各地のハーブ園で生産されている、葉の単価も、緑茶と同じ相場のようで、ただ、緑茶のように、日常飲まれるかの問題だけで、生産計画が立てられないことはない。市職員が素人的に行うより、生産は、農協に、販売開拓は商工会議所に委託した方が早い。



これでいいのか？

行政改革と職員採用

（予定外採用）

（I・Uターニング採用）

武雄市は、H23年に財政破綻すると言っている。H18～H22の5年間に、53億円が不足する見込みで、3億円を収入増で、まかない、後の50億円を、支出抑制で対応。

①人件費の削減で、34億円削減。
②事業の選択中止 9億円削減。
③経費の節約など 7億円削減。
となっていて、中心は人件費削減である。

その具体的な計画については「武雄市定員適正化計画」と言うものが作られている。

図1の様に、5年間で、63人の削減計画で、多い様にも思えるが、旧武雄市の時、約80人の削減の計画からすれば、5万2千人規模での削減の目標は低い。

そんな中、H18年度は、H17年度に、前の古庄市長が、採用を0としていた為に、差し引き21名の純減して目標達成へ前進した。

また、H19年度は、11名の退職予定だが、自ら退職される方が、3人おられて、いくぶん前倒しとなっていた。

しかし、現在募集している、H20年度の採用は、予定6人に対し11名の募集をしている。

そこで、今9月議会、財政破綻を防ぐ為の、人員削減の元となる。職員採用を、予定の2倍近く募集し、計画目標を、くずして行くと、大丈夫か、との質問をした。

市長は答えず、総務部長が答えるには、H19年に、予定より多い退職者があったからで、最終63名減は達成するので心配ないと言う。

しかし、これから下水道等も広げれば、50億

年度	採用	退職
H18	0	21
19	7	11
20	⑥	21
21	7	25
22	7	20
23	8	—

H20年度は6名を予定するが11名を募集

公表はできないと言う。しかし、この面接・論文採用については、客観性の確保は、生命線である。私としては、論文やプレゼンテーションは、文化会館やケーブルテレビで、発表させるなど、市民に解る形で実施しなければ、いざ問題が発生するとの確信がある。

議会まつ二つ

公共下水道料金

初めて見た
光景

私が、市議になってから、始めて、議決が、まっ二つに分れた光景を見た。しかし、与党が、数名多く、可決した。

【受益者負担】 1戸15万円

悩んだあげく反対した。
計画区域183haの事業費、約70億円の5%を、受益者に負担してもらおう方針で、金額は、3億4200万円。

建物数が、2、200件あり、一戸当たり、15万5、670円になる。一方、農業集落排水事業の負担金が、現在15万円なので、この際統一し、単一定額方式にし、受益者負担金は15万円に統一する市の方針。

しかし、全国的には、地積割りと言って、土地や家屋の㎡に単価をかけて付加する方法で、合理的として、全国1、238自治体のうち、約80%の964がこの方式。単一定額方式は、僅か9%110しかない。佐賀県の市において、単一定額方式は、神埼市と小城市のみで、それも、合併前の旧町でされていたのを引きついで形。やはり、多くの市が地積方式を取るの、偶然でなく、考えたあぐくの結論とも思われる。

組合せ方式で不公平は正を

そこで、武雄市の公共下水道をどう考えるかだが、やはり、単一定額方式の場合、市民から、高層マンション一棟も、高齢者の一人住まいも、まったく一律は、不公平と言われた時、答に困る。

近年は、高齢者の医療負担が増えるなど、格差が拡大し社会問題化している。

そこで、少しでも、不公平を改善する方法はないかと調べると、最近、共用開始した、近隣の嬉野市や多久市においては、地積割り方式とは言うものの、一般的な住宅の広さの100坪までは、一定料金で、それ以上になれば、少しずつ加算する、組合せ方式となっていて、農排との公平感や公共下水道の一般住宅と工場・マンションとの不平等にも対応し、あり佐賀県内の実態とも合っている。

やはり、武雄市も、単一定額が事務処理が楽と言うが、組合せ方式で不公平感が薄れるなら、努力すべきと思うし、嬉野市や多久市にできる事が、武雄市にできないことはない。との思いから、単一定額方式の条例案件には反対した。

総事業費70億円の疑問

また、一方、受益者負担金の、15万円の算出にも、疑問がある。それは、受益者負担金の基礎となる、総事業費についての疑問で、武雄市は、183haで70億円、多久市は、163haで97億円と高額であり、ほぼ、事業の終了している多久市の方が正確と思われる。多久市の単価で、武雄市の183haを計算すると、109億円になり、その5%5億4450万円を2、200戸で割ると、負担金は一戸25万円になる。

すると、15万円に統一との理由はまったく意味がない。
一方、公営企業年鑑では全国の平均の事業費1ha単価は、4、620万円とあり、それを183haにすると、約85億円になる。
また、静岡県島田市では、同じ183haを整備し、86億円を見込む。武雄市の70億円は現実性がなく、

後で上って、負担金変更の恐れも。

【下水道使用料】 ㎡180円

※ 同じく悩んで反対した。

市の方針は、持続可能なように維持管理費に当る、㎡当り226円を徴収することとした。

これを、基本料金2、000円と㎡当り180円での答申があり、市も従った形だ。

ところで、私の反対理由だが、行政問題審議会からは、他に、旅館業などの大量排出者への配慮をすること。が答申されているが、それが、無視されていること。

これは、何かと言うと、温泉などは、汚い洗い水と、比較的川の水よりきれいな、浴槽水があり、その全てに同一料金をかけると、高額となり、いわゆる、観光客に好まれる、かけ流し湯ほど経営を圧迫することになる。

伊万里市でも、浴場業については、㎡当り、30円と格安料金となっていて、各地にもあり、まれな事ではない。心配するのは、市は、10年以内に、大量使用者の温泉旅館全部の加入を予定するが、現在、すでに合併浄化槽を設置する旅館が、わざわざそれを廃止して高い使用料金の公共下水道に加入するかの心配がある。

嬉野市は、旅館の加入は予定してなく、加入が現実的になれば、別料金も考えられるとのこと。

合併メ리트料金に反映なし

また、他の議員からは、農排に加入した者は、もう他の方法には変えられない。旧町の時に示された料金の基に加入したので、料金体系を変えるのはサジだ。

また、合併の時に、行政組織の統合スリム化で、サービスは高く負担は低くなるとの説明だったが合併効果を活かし、低い方に合わせること考えられるのではないか。など、単に、下水道特別会計の

反対理由 第4次武雄市総合計画の「カレンダー」に意味はあるか？

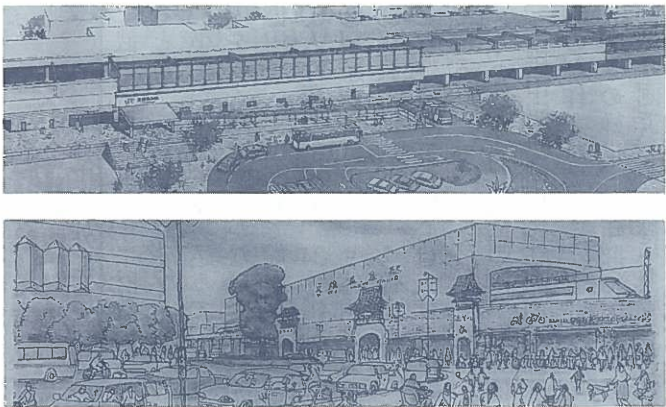
武雄市総合計画「カレンダー」費

いわゆる、市の10年間の事業の柱とする計画であるが、それを絵・イラスト化したものをカレンダーにして、全市に無料配布するもので、市長方針という。また市外者には1冊100円で販売する一方、カレンダーには、企業広告1枠2万円の24枠、48万円の広告収入を計上している。

質疑では、旧武雄市では、総合計画を必要とする市民には、事前に予約を回覧で各世帯からとって、1冊1000程度で販売していたが、今回は、どうなるのかとの私の問いに、総合計画そのものは、製本せず、インターネットにアップ（掲載）するとの説明。

しかし、この総合計画カレンダーについては、問題あるとして、予算案には、結局反対を決定。

その理由は、金額は、数十万円と少ないが、市行政施策として、
①不公平、②誤解発生の問題がある。
③不公平、④誤解発生の問題がある。⑤不公平、⑥誤解発生の問題がある。⑦不公平、⑧誤解発生の問題がある。⑨不公平、⑩誤解発生の問題がある。⑪不公平、⑫誤解発生の問題がある。⑬不公平、⑭誤解発生の問題がある。⑮不公平、⑯誤解発生の問題がある。⑰不公平、⑱誤解発生の問題がある。⑲不公平、⑳誤解発生の問題がある。㉑不公平、㉒誤解発生の問題がある。㉓不公平、㉔誤解発生の問題がある。㉕不公平、㉖誤解発生の問題がある。㉗不公平、㉘誤解発生の問題がある。㉙不公平、㉚誤解発生の問題がある。㉛不公平、㉜誤解発生の問題がある。㉝不公平、㉞誤解発生の問題がある。㉟不公平、㊱誤解発生の問題がある。㊲不公平、㊳誤解発生の問題がある。㊴不公平、㊵誤解発生の問題がある。㊶不公平、㊷誤解発生の問題がある。㊸不公平、㊹誤解発生の問題がある。㊺不公平、㊻誤解発生の問題がある。㊼不公平、㊽誤解発生の問題がある。㊾不公平、㊿誤解発生の問題がある。



上：都市計画課のパス図（駅前）
下：カレンダーのイラスト

みの機械的な逆算での算出でなく公共料金としての、政治性などの観点からの意見もあった。
しかし、全議員で作る、下水道問題特別委員会にも、市長は、一日目に挨拶に来ただけで、採決まで顔も見せなかった。
ここまで、色々、議論の報告を書いて来たが、市民から見れば単純に、「なぜ旧武雄市は、水洗化が遅れているのか」「なぜ、使

用料が嬉野市が基本料金1、200円、㎡当り、1500円で、できるのに、武雄市はできないのか、との感をもたれるのやむおえない。
私が思うに、下水道の規模が嬉野市の半分しかなく、水洗化も少ないし、維持管理費も割高になっていて、計画性がないこと。
また、合併での人件費削減を公共料金にどう投入するかの政治方針不足。

集めて、市の今後の10年間の主要施策として、全世帯に配布すれば、その絵の内容が一人歩きして、全市民的誤解をあたえ、イラストに出て来た地区や場所のみが、整備されるとの疎外意識も出て来る。
だから、各世帯にカレンダーが配布された時、市民から、少額とは言え、これに、単独市費を使っている本当に意味があるか？賛成した理由を聞かれた時、返答できないと思い、反対した。

制作後記と今後のプラン

特に、武雄温泉駅周辺は、都市計画課の示す絵と明らかに違う。
今後の活動としては、西部ゴミ処理センター（伊万里市・有田町・杵藤地区）の動きを調査して行きたい。武雄市としては、用地は伊万里市内で、西部ゴミの組合に負担金を出す型であるが、建設費は巨額であり、また、全ての自治体が間接的になり、杵藤クリーンセンターの漏水問題のように、建設的にチェックしておかなければ、過失責任が後で問えないとの経験もあり、注視して行きたい。

2点目は、下水道マップの見直しで、下水道や農排水の料金が問題となったが、一番の問題は、旧武雄市では、合併浄化槽を基本としていて、新市の比率でも一番多いが、自己負担が一番高い。また北方町中心部や旧武雄周辺部など整備の話さえ不公平の解決へ。